



謎の超笑力をもつ大魔王が、あなたに贈る不思議なムダ話

発行：トラベル・ミトラ・ジャパン

ぼん子画

(530-0041) 大阪市北区天神橋 1-18-25 第3マツイ・ビル 201 TEL: 06-6354-3011

お笑いエッセイのメール発信をご希望の方は、ご連絡下さい。(E-mail: daimao@travelmitra.jp)

「インド・大菩提寺物語」①

そろそろお盆が近づいてきましたが、今回のコロナ・ウイルス災禍で何を悟りましたか。「生」まれおちてきたのだから、人は「老」いるだろうし、「病」にも罹るだろう。どうあがいても人は「死」ぬものだから、いまさら思い悩んでも仕方がない。凡人は「諦」めるのが一番だと思いませんか。

数名の人からワクチンを打つな、という知らせを頂いた。遺伝子構造に異常をきたすという説である。テレビでは、医療関係者がデマだとコメントを述べていた。

ある研究者から「久しぶりに会いたい」とメールが送られてきた。わが輩は気を遣って、「ワクチンを打ってからなら、ご迷惑にならないので、接種後に会いましょう」と返信した。ところが「接種前なら会えるが、接種後ならお会い出来ない」とワクチン有害説の資料を添付したメールが送られてきた。わが輩とは逆の返信に戸惑った。接種後なら肉体はウイルスだらけなので、感染する危険性が増すので会えない、というわけである。

わが輩よりも数倍も見識がある研究者なので、いかにすべきかと思ひあぐねた。そこで、わが輩ははたと悟った。悩むことはない。接種前に会えばよい、と悟ったのである。

次に、元禅の修行者から、「ワクチン打つな！」のメールがきた。残念ながら、接種後に頂いた忠告であった。それならば、とデトックス（解毒）の方法を添付して送ってきた。

「ワクチンは毒！松葉で解毒」

「松葉の成分ロイシンに解毒作用があると言われていています。いろんなサイトやショップから松葉売り切れのお知らせが出ていますが、今注文できるところは、こちらです」

友情あるアドバイスなのだが、実は37年前に松葉を飲んだことがある。わが輩はインド・ネパールでA型肝炎に感染、帰国後に発症し3ヶ月ほど入院したことがある。わが輩をインドに送った従兄から「松葉を飲んだら良いらしい」と電話があり、母がミキサー機を買ってきて松葉ジュースを作ってくれた。結論から言おう。

「松ヤニ臭くて飲めたものじゃなかった」

われわれは迷いの川を流れる浮遊物のようなものである。

親しき人たちのアドバイスをありがたく思い従ってみたり、疑ってみたり、その関係をど

のように維持しようかと考えたり、考えあぐねたり、一体どうしたら良いのだと、流されながら、鴨川を流れゆく木片のような存在である。それでも鴨川は淀川につながり、次に大阪湾に流れ込み、ついには大海に至る。皆様方よ。この大海こそ完全なる「悟り」の世界、悩むことがない世界である。安心召され。だれでも、ついにはその世界に突入する。

凡俗のことばでいえば、あの世に赴く、あるいは何ものも無くなる、ということである。

ところが、大海に至る前に、悟りたいのが人情というものである。それを目指したのが、前述の禅の修行者である。若いころから、ひたすら禅の修行に励んだ。ところが、ある日、わが輩に電話してきた。

「大魔王よ。悟りなんて、ない、ない。座禅を組んで身体を壊しただけ。無駄な人生だった」「それが解ったことが、悟りではないか」

と、わが輩は分かったようなことを言って慰めた。

そもそも、わが輩は「悟りとは何か」がさっぱり理解できていない。残念ながら悟った人に会ったこともない。

さて、僧侶が知る、あるいは仏教学者が解説する「悟り」の源流はどこなのか、凡俗のわが輩が語ってみる。くれぐれも誤解しないでいただきたい。わが輩は「サトリ」の内容について語ろうとしているのではない。その源流にまつわる、きわめて通俗的なことを語ろうとしている。

ところで、聖なる仏教遺跡は、次の八ヶ所である。

1. ブッダ生誕の聖地ルンビニー（ネパール）
2. ブッダが悟った聖地ブッダ・ガヤー（ビハール州）
3. ブッダが初めて法を説いた聖地サールナート（UP州）
4. ブッダが涅槃に入った聖地クシーナガル（UP州）
5. ブッダが法華経などを説いた聖地ラージギル（ビハール州）
6. ブッダが最も好んだ聖地バイシャリー（ビハール州）
7. ブッダが雨期に滞在した聖地・祇園精舎（UP州）
8. ブッダが天界から降下してきた聖地サーンカーシャ（UP州）

その源流とはどこなのか。ブッダが悟りを得たブッダ・ガヤーの大菩提寺である。

ブッダ・ガヤーはインドのどのあたりにあるのか。コルカタの580キロほど北にある。首都デリーから1000キロほど東のビハール州にある。ビハールはヴィハーラ（僧院）からきている。仏教に縁のある州である。

次号から、通俗的なというのか、麻原彰晃の裏話というのか、極めてつまらないことを、たまには深淵なことを語ったり、その歴史を語ったりしながら、大菩提寺の今について話を進めたいと思います。